

様式2 **令和3年度 清瀬市立清瀬第四中学校 学校評価表**

学校教育目標	人間尊重の精神に徹し、自己の能力伸長と人間形成に努める人を育成する 創造 温情 実践 健康	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
目指す学校像(ビジョン)		【育成を目指す資質・能力】 ○「夢・志」をもち、教養と品格+逞しさを備え、持続する社会を創造することができる。 ○生徒が主体となる、SDGsに向けたボランティア活動の活性化。
【目指す学校像】	生徒が学校に来ることが楽しいと思える、一人一人が生きて学び合う学校。	
【目指す児童・生徒像】	自ら進んで学ぶことができる、心温かい、実践力のある、健康な生徒。	
【目指す教師像】	生徒一人一人に確かな学力を身に付けさせることができる、教育に情熱をもち、生徒と共に成長しようとする教師。	

前年度までの学校経営上の成果と課題	【成果】 「対話的」な授業を展開し、各教員一人ひとりがファシリテーターとしての力を身に付けてきた。 【課題】 コロナ禍における「対話的」な授業の運用面を、教職員間の共通認識のもと実施する必要がある。
--------------------------	--

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策	
		評価	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策	
		取組指標	成果指標			
確かな学力の向上	○教室環境・授業規律の改善を図る。 ○語彙力、読解力、計算力等の定着・向上を図るための帯学習や小テスト等を実施する。	4	3	各教室へのプロジェクターの設置、全生徒へのタブレットの配布等学習環境を整備した。授業のねらいを明確にし、授業規律の確立を図った。朝読書や計算コンクール等により読解力、計算力等の定着・向上を図った。	○タブレットを活用した意見交換では、発言が少なく文章での表現が難しい生徒はいないのでょうか。大人でも文章での意志疎通の難しさを実感しています。 ○教室環境が整い、学習への意欲が高まることは素晴らしいことだと思う。小テスト、コンクール等を実施することで、授業への理解は深まると思うが、振り返りや家庭学習は、もう少し自分自身で行ってほしい。 ○タブレットを活用することで、皆の前で発言できなかった生徒も意見が出しやすくなったのではないかと。タブレットの活用方法を学校だよりやHPでも発信してほしい。 ○生徒アンケート「授業のねらい…」が低いが、工夫している様子が伺える。成果が出難い項目、諦めず地道な継続をお願いします。	○教室環境の点検・整備・改善、授業規律の順守を常に教員に声掛けする。 ○朝学習と朝読書の意義を理解させ、集中した取組を徹底させる。 ○ねらいの提示や板書の取り方等、授業の実施方法を徹底させる。○タブレットも併用し、生徒を主体とした授業を実施させる。授業観察・授業アンケートを根拠に徹底する。
	○各学期に最低1回、個人グループ→個人等、生徒を主体とした授業を行い、授業力向上に向けた管理職との協議を実施する。	3	2			
豊かな心の育成	○各学期に最低2回以上、議論する道徳の授業を行う。 ○授業の中で変容を認め、励ます評価を行う。	3	3	道徳は概ね議論する形式で実践できた。タブレットを活用し、意見交換も順調にできた。数学や英語等、少人数授業の利点を生かし、生徒をよく観察し、生徒の変容に対応した授業を展開した。	○分掌・学年・学級及び生徒会等、四中教育の全体を通して生徒自身に考え行動させる。多くの達成感や成就感、成功体験を味わわせ、夢をもたせたり自尊感情を高めたりする教育につなげる。 ○教職員が、社会人・教育公務員としての言動をとり率先して生徒の見本となる。 ○保健体育科を核とし、運動の必要性を生徒に理解させ、日常生活の中で運動に親しむ態度と習慣を育む。	
	○大人が見本となり、挨拶や礼儀・適切な言葉遣い等を励行していく。 ○全ての生徒が、気持ちよく生活できる校内環境の構築に努める。	4	3	生活委員会による朝の挨拶運動を実施した。教員が率先して生徒に挨拶をし、生徒もそれによく応えて挨拶ができた。来校者に対しても、生徒は元気に挨拶できた。		
健やかな体の育成	○スポーツテストの結果等を活用し、運動に親しむ習慣を育てる。 ○規則正しい生活習慣を奨励する。 ○食育を通じた健康教育を実践する。	4	3	体育の授業を核に、生徒が運動に親しめるよう促した。朝遅刻をする生徒は0に近い。基本的な生活習慣は身に付いている。朝食はしっかり取る生徒が多いが、昼食の食べ残しが多い。	○自己評価ではかなり目標を達成できているように感じます。成果として低く評価されているのはなぜでしょうか。 ○特別活動、部活動に四中の生徒は活発に取り組んでいる。今後でもできることを継続してほしい。	
	○特別活動や部活動等の効果的な指導及び活用を図り、生徒の健全育成に努める。	4	3	コロナ禍において制限のある中、各部活動では効果的な練習を工夫して行った。薬物乱用防止教室や保健講話を通じて生徒の健康に対する意識を向上させた。		
特別支援教育の充実	○生徒理解等に関する情報を共有し、個に応じた指導を推進する。	4	4	定期的な生活指導部から報告が出され、朝の打ち合わせの時間等を活用して生徒理解に関する情報の共有を行った。その上で個に応じた対応を組織的に行った。	○全教職員にインクルーシブ教育の視点をもたせ、生徒・保護者に寄り添う教育を徹底させる。 ○生徒理解と情報共有を徹底し、生徒・保護者とのより良い信頼関係の構築に努めさせる。 ○全教職員に、校内フリースクールの場としての図書室の利活用を意識させ、不登校生徒数の低減に努めさせる。 ○課題・状況に応じ、外部機関等との連携を積極的に行わせる。	
	○情報共有を推進する。 ○必要に応じて外部機関との連携を積極的に試みる。	4	4	スクールカウンセラーの来校日に教育相談部会を開き、情報交換・情報共有を行った。子ども家庭支援センターや小平児童相談所、医療機関とも綿密な連携ができた。		
本校の特色	○川の清掃活動等、生徒が主体となるボランティア活動を継続する。	2	2	校内において、美化委員会を中心に落ち葉掃き清掃ボランティア活動や、花壇・庭づくり活動を実施した。空堀川の清掃は、川の工事の関係で実施できていないが、その周辺等の清掃を計画している。	○SOSの出し方、赤ちゃんのカプロジェクト、命の教育講演会、議論する道徳、認知症サポーター講習等を実践し、自他の命を大切に心、多様性を認める力を育成する。 ○真に生徒が主体的に考え取り組むボランティア活動を行う。 ○全教職員がアンテナを高く張り、報告・連絡・相談・記録を徹底し、組織的な未然防止を図らせる。 ○定期的な調査・分析・改善を確実に実施させる。	
	○学級、学年における読書への取組を充実させる。 ○学期ごとの読書推進月間を設定する。	4	4	6月、11月、2月を読書推進月間として設定し、毎朝20分の読書を実施した。2学期からボランティアを活用し、月曜日と火曜日の放課後、図書室の開放を行った。		